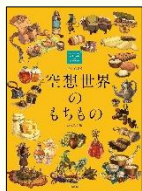




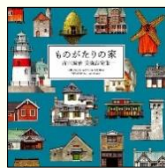
どちらでも制作のポイント等も紹介しているので、自分だけのオリジナル空想世界作りにチャレンジしてみたい、もしこの世界のこの家の住人だったらこんな生活を送るだろうと想像する時間は、大変に無駄で、大変に贅沢な時間でもあると感じます。みなさんも現実世界から離れてみて、空想世界のお気に入りの街や家を見つけてください。

(おもち)



『空想世界のちもの』
るさち/著
日貿出版社

背景コンセプトアートを手掛けるるさちさんのイラスト&設定資料集。街・家のみならず人物や装飾品、食べ物まで掲載され、気分は最高です。



『ものがたりの家』
吉田 誠治/著
パイインターナショナル

背景イラストレーターとしても活躍される吉田誠治さんの美術設定集で魅力的なおうちが33点収録されています。

ROADをたいていくと敵との戦いは極力避け、街をひたすら練り歩き、民家やお店にお邪魔しては図々しく引き出されてやう壺の隅々まで見回るタイプです。それくらい街並み、家や建物、間取りを見ることが大好き。そんな私と同じく街や家、背景美術や設定画がお好きな方におすすめしたいのが『ものがたりの家』と『空想世界のちもの』です。



《ジュニア司書講座》の裏側！

令和5年度から中央図書館で新たに始まった中学生向けの夏休みの企画「ジュニア司書講座」。昨年度は初めてということもあり、図書館の職員も手探り状態からの始まりでした。参加した生徒が講座を通して、「友達や周囲の人々に読書の魅力を発信できるようになあれ！」という目標のもと、2人の中学生が参加してくれ、第1号の習志野市ジュニア司書が誕生しました。そして今年の第2期「ジュニア司書講座」では9人が参加してくれました。1コマ50分×12コマの講座を4日間に分け、14人の職員が講師を分担しました。昔、学校で司書過程を学んでいた懐かしい頃を思い出したりしつつ、講義の時間はあっという間に終わってしまいました。

中央図書館ティーンズコーナーでは、講座で作成してもらったおすすめの本のPOPを飾っています。また、ジュニア司書の皆さんの中から希望者を募り図書館のイベントのお手伝いをお願いしたり、不定期に、5歳から小学生を対象としたおはなし会での絵本の読み聞かせを行ってまいります。今後は10月に行った第1回ジュニア司書ミーティングで出た意見を中心に、ジュニア司書としてさらに幅広く活動を展開してもらう予定です。

「ジュニア司書講座」は来年度も開催予定です。皆さんとの出会いを楽しみに図書館でお待ちしております。

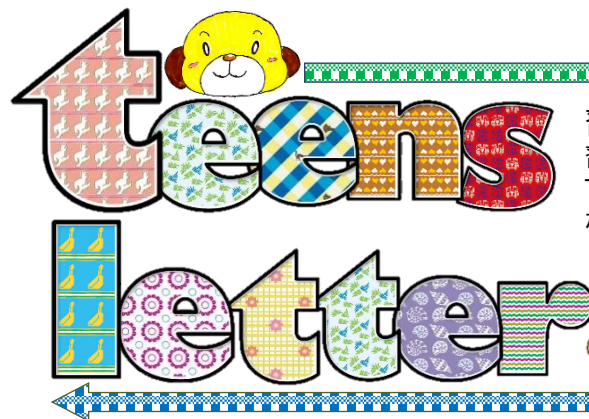
編集後記 ティーンズレター第58号はいかがでしたか？次回は春頃にお会いしましょう♪

新しいことを覚えると、古い記憶が代わりに消えていくと思っていたら、近頃、新しい記憶もどんどん消えていく。。私の脳みそもうちっと頑張ってくれい。(コロ)

もっと絵の勉強を頑張って、いつか自分だけの理想の住処の設計図を作りたいものです・・・夢膨らむ・・・
(おもち)

幼少期からクイズ番組が好きで、クイズ研究部に入っていたこともあります。図書部員でしたが・・・今でも少し雑学王にあこがれています。「何でも知ってる人、カッコよくないですか？(あくあ)

2024年11月発行



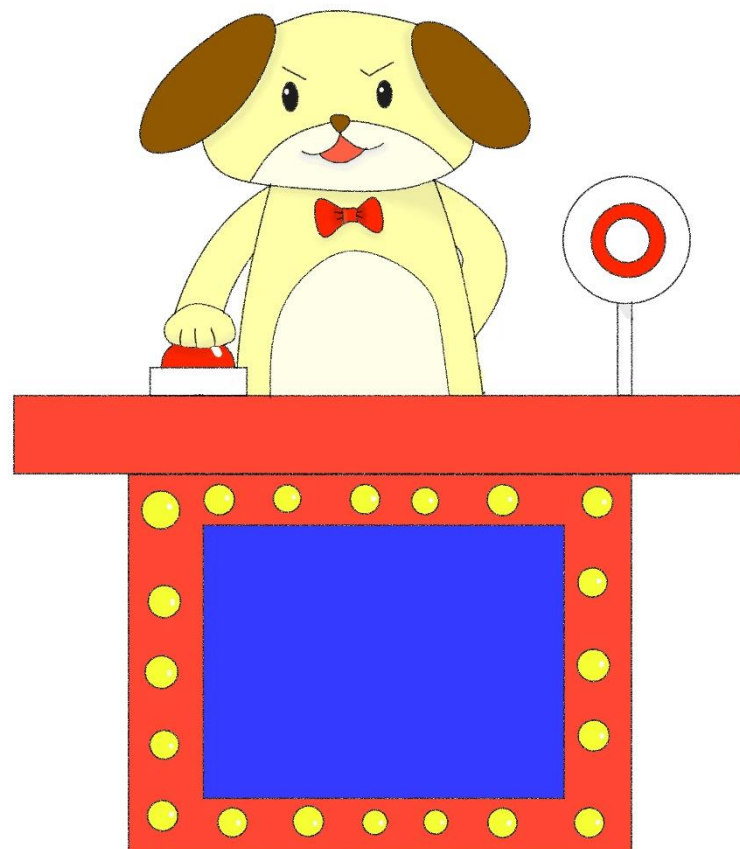
習志野市立中央図書館
習志野市本大久保3-8-19
TEL:047-475-3213
ホームページ



<https://www.narashino-lib.jp>

ティーンズレター
VOL.58

目指せ、雑学王！



毎日がもっと楽しくなる
雑学の世界へようこそ！

目指せ！雑学王

『サランラップのサランって何？』

誰かに話したくてしかたなくなる“あの名前”の意外な由来
金澤 信幸／著 講談社

だれでも知っているあの会社名やあの地名、あの人名に実はこんな意味があったって知ってた！？目次をながめているだけでも好奇心の扉が開くこの一冊。東京ディズニーリゾートが位置する浦安市「舞浜」や、習志野市の「津田沼」の由来も紹介されています。



『切り身なのになぜ刺身？』

知っているようで知らない日本語の秘密
語源の謎研究会／編 青春出版社

「赤の他人」の「赤」って？「とんちんかん」は何の音？「湯船」はどうして「船」？「ピンからキリまで」の「ピン」と「キリ」はどっちが上？普段使っている言葉の意外な語源を、面白いエピソードと可愛いイラストでご紹介！日本語の面白さと奥深さを楽しめる一冊です。



『名画たちのホンネ』 とに／著 三笠書房

名画による自分語りにちょいとお付き合いくださいな。どこかで見たことはある、けど詳しくは知らない……そんな絵画や彫刻・工芸品の皆様が、自身のシチュエーションやウラ話をじゃんじゃか教えてくださいな。そうですねえ、例えばダ・ヴィンチ作《モナ・リザ》さんやゴッホ作《ひまわり》さん、ロダン作《考える人》さんとか。秋の夜長に耳を澄ませて名画たちのホンネを聞いてみませんか？



『クラシックBOOK』 飯尾 洋一／著 三笠書房

ある作曲家の恋人はホテルの宿帳にこう記載しました。

住所……自然	職業……放浪
出発地……神	旅券の有効期限……永遠
目的地……天	旅券の発行者……世論

さて、ある作曲家とは誰でしょう？
とお～っても有名な
お方なんです。

クラシック音楽の魅力がぎゅっと詰まった一冊で入門にもピッタリ。



『理系の「なぜ？」がわかる本』

小谷 太郎／著 青春出版社

言われてみればわからない、身の回りに潜む理系の不思議。朝日中高生新聞にて連載されていたコラムから厳選しているため、理系は苦手というティーンズのみなさんでも楽しめるようにやさしく解説してくれます。「なぜ？」が「なるほど！」「そうだったのか！」に変わる一冊。



『宇宙100の謎』 福井 康雄／監修 角川学芸出版

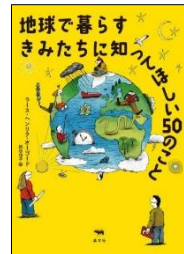
人類が焦かれ続け長年研究を行うも、未だその多くが謎に包まれている場所、宇宙。そんな宇宙に対して人々が抱いた疑問に、専門家がわかりやすく答えてくれるのがこの本です。太陽や月だけでなく、ブラックホールやダークマター、宇宙人について本気で知りたいあなたにおすすめ。



『地球で暮らすきみたちに知ってほしい50のこと』

ラース・ヘンリク・オーゴード／著 枇谷 玲子／訳 晶文社

宇宙・地球・海・山・生き物。それらにまつわる素朴な50の疑問に、あなたはいくつ答えることができる？地球上に住んでいてもわからないことだらけ。でも知ること、理解を深めて考えることでこれからの未来が見えてくる。本書はそのはじめの一歩です。



『トリノトリビア』

川上 和人／監修 マツダ ユカ／マンガ 西東社

スズメは頬の斑点が大きいほどモテる。ハトはちゅうちゅう水を飲み、サギが白いのは撥水加工のおかげ…？ゆるかわいい4コマ漫画と共に、鳥類学者の著者が教える“いつも見かける気になるあいつ”らの生態トリビア。思わずへえ…！と声のでちゃう。



『せつない！いきものの死に方図鑑』

今泉 忠明／監修 下間 文恵／イラスト 宝島社

生き物が最後にたどりつく死。ページをめくる度、あまりのせつなさと思いがけない死の理由に胸を打つものが…。人間の食料となるために生まれてくる生き物に感謝を捧げ、私達は今日も生きていきます。

